

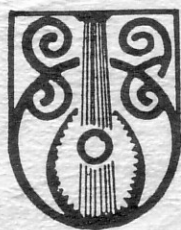
オーケストラ シンフォニカ 東京

第 44 回

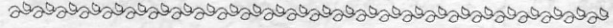
定期演奏会

平成 15 年 4 月 21 日 (月) 午後 7:00 開演

第一生命ホール



プログラム



第一 部

指揮： 嶋 直 樹

オラーツィとクリアーツィ

トメニコ・チマローサ^テ(G.F.ホーリ編曲)

教会ソナタ第1番 K67
教会ソナタ第5番 K145

W.A. モーツアルト(嶋 直樹編曲)

アダージオ

L.V. ベートーヴェン (R. カーチェ編曲)

第二 部

指揮： 宮 本 皓 永

今日の喜び

武井守成

木の実は躍る

武井守成

マントリンオーケストラのための鶴翼の詩

伊 東 福 雄

I 夜明け(序曲)

II 妄 想 (「竹」朗読付)

III 眺 望

IV 山に舞う(終曲)

第三 部

指揮： 山 本 雅 三

ロマン的協奏曲 (Romantisches Konzertstück)

K. ヴェルキ

組曲 中世の放浪学生 (Suite Goliardica)

A. アマデイ(中野二郎編曲)

I 放浪 (Ronda)

II 愛のワルツ (Walzer d'amour)

III 朝の調べ (Mattinata)

IV 謝肉祭の行列 (Corteggio Carnevalesco)



曲 目 解 説



第一部

オラーツィとクリアーツィ

ドメニコ・チマローザ (G.F.ホーリ編曲)

作曲者のドメニコ・チマローザ (1749年～1801年) は18世紀後半のイタリア・オペラを代表する作曲家として知られています。本日演奏する「オラーツィとクリアーツィ」は、悲劇「オラーツィ(ホラーティウス家)とクリアーツィ(クリアーティウス家)」を題材としたオペラの序曲です。初演は1796年12月でした。古代ローマのホラーティウス家の嫡子マルコ・オラーツィオと敵対するアルバ＝ロンガ国の貴族クリアーツィオがそれぞれの祖国をかけて決闘をすることに。しかしながらそれぞれの妹が相手の妻になっている、という複雑な関係。祖国をとるか妻をとるかという悲劇で、初演時はもちろん18世紀のイタリア代表的歌劇として後代のオペラに多大な影響を及ぼした作品とされているようです。(嶋)

教会ソナタ第1番 変ホ長調 K.67

教会ソナタ第5番 ヘ長調 K.145

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(嶋 直樹編曲)

W.A.モーツァルト (1756年～1791年) は生涯に17曲の「教会ソナタ」と呼ばれる曲を作っています。ここで教会ソナタとは、キリスト教(カトリック)の中心的な礼拝を意味する「ミサ」の合間～グロリア(栄光の賛歌)とクレド(信仰宣言)の間に演奏される1楽章の小曲で別名「使徒書簡のためのソナタ」とも言われ、主にバイオリン2本とオルガンという小編成で奏せられました。ちなみに今回演奏する2曲ともモーツァルト16歳の時の作品と言われており、重々しいミサの雰囲気の中でこれらの曲は一瞬ほっとできる時間を演出したようです。当時モーツァルトはザルツブルグ大聖堂のオルガニストの地位にあり、自らこれらの曲を演奏したと言われています。(嶋)

アダージオ

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(ラファエル・カークエ編曲)

ベートーヴェン (1770年～1827年) の音楽家としてのデビューは1778年、当年7歳の天才ピアニスト少年としてでした。22歳より始めた作曲ですが、作品番号を持つ作品135曲と持たない作品191曲を残しています。彼の良き理解者であったリヒノウスキー侯爵との旅でプラハ滞在中に4つのマンドリンとチェンバロのための作品(作品番号なし)が作られました。1796年のことです。奇しくもD.チマローザ「オラーツィオとクリアーツィオ」の初演と同年となっています。もう一つ、この1796年の出来事としてナポレオン率いるフランス軍のイタリア侵入を見逃すことはできません。この時代、ナポレオン軍の動静が音楽史に大きな影響を与えたと言っても過言ではないでしょう。(嶋)

第二部

今日の喜び

武井守成

この曲は大正14年1月31日 R. カラー・チェ来日第2回演奏会に作曲者 武井守成 (1890年~1950年) 自身の指揮により初演されました。昭和35年12月にコロンビア・レコードよりLPで武井守成作品第3集“若き日の思い出”として発売された中にも吹き込まれています。

「作者の言葉 = 東伏見宮妃殿下の御喪服後の御誕生日に捧げたるもの」 (宮本)

木の実を躍る

武井守成

武井守成作品・ラジオ放送作品第2集の中の作品です。

まだ、テレビのない時代、NHKラジオで、ある期間、毎晩「おやすみ番組」として放送され、「夜も大分更けてまいりました、おやすみ前のひと時、この音楽でお楽しみ下さい。N・H・K」というアナウンスでこの曲がながされました。

「作者の言葉 = 堅い小さな実が木から落ちて、跳ね返り転がる様の図案化、描写ではない」 (宮本)

鶴翼之詩

伊東福雄

伊東氏 (1947年~) は現在、ギタリストとしてギター界を超えてマルチに活躍中です。

1969年より小原聖子に師事し、O. ギリアやN. イエペスの講習会に参加するなど研鑽をつみました。'72年クラシカルコンクール第1位、デビューリサイタルを経て、'85年よりギターデュオ「フリーバース」として篠原正志氏と活動を始め全国各地で好評を博しています。

さまざまなジャンルの楽器との重奏を続ける中で創作活動を始め、ギター曲はもとよりリコーダー、尺八、声楽、ヴァイオリン、ピアノ等の合奏、重奏曲を発表しています。また、同時にマンドリンアンサンブルの作品も創作活動を重ねています。マンドリン曲としては、本曲のほか「関北の都」「利根の瀬音」「ぶな伝説」「維新無情」「ノア」等があります。

日本ギター連盟理事、東京国際ギターコンクール審査員、日本ギター合奏連盟理事、新演奏家協会所属。 (宮本)

作曲ノートより 1983年群馬の両角氏との雑談の中から「朗読とマンドリン合奏による群馬県生まれの文人の作品紹介」のアイデアが生まれました。以来、萩原朔太郎と田山花袋の作品による様々なスタイルの楽曲が創作、初演、再演されてきました。

朔太郎没50年にあたる1992年3月、それらの「序曲」「終曲」にあたる、この「鶴翼之詩(かくよくのうた)」が湧いてきたのです。タイトルは、群馬県の地形が鶴が羽をひろげた姿に似ていることから「鶴翼」の言葉を選び、文人の関係を示すために「詩」と続けました。

各楽章は (1)「夜明け」広大な関東平野の中頃、利根の流れも緩やかな群馬県南端の館林市付近から広々とした平野を望むイメージ。

(2)「妄想」萩原朔太郎の著名な詩“竹”から受けたイメージを音楽にしたもの。

(3) 「眺望」前橋から榛名山に至る景色をイメージ。自然の豊かさや美しさだけではなく厳しさも。

(4) 「山に舞う」そして気まぐれに山々をぬって、暴れまわる上州名物のカッ風と草津などの山岳地帯をイメージ。

この構想は様々なイメージを得ようと地図を見ていた時に生じたもので、私が慣れ親しんでいる鶴の背骨ラインにあたる館林市、前橋市、榛名、草津白根の地形的起伏を軸として練ったものです。

第三部

ロマン的協奏曲

コンラッド・ヴェルキ

20世紀のドイツを代表するマンドリンの作曲家ヴェルキ（1904年～1983年）のOp14、1931年の作品です。ヴェルキは初期の作品である5つの序曲が特に有名で、マンドリン合奏の世界にオーケストラ的な管楽器、打楽器をまじえた大編成を導入し、ドラマチックで迫力ある重厚な作風で、それまでのどちらかという叙情的なイタリアマンドリン音楽に対して新風を吹き込みました。本曲もその流れをくみ、壮大で骨太な構成を持ち、かつ細やかで変化に富み、ロマン的な薫りがちりばめられた佳曲です。コンツェルトシユテュック(Konzertstück)とは主に1楽章形式の内容が自由な小協奏曲の事で、速度、拍子、調子などが異なる部分があくまれます。

ヴェルキは後年にはバロック音楽的な作品を弦楽器のみの組曲として作曲したり、またマンドリン教本、評論、研究論文を発表したりと生涯マンドリン音楽界に貢献をつけ、幅広く大きな足跡を残しました。（山本）

組曲 中世の放浪学生

アマデオ・アマデイ(中野二郎編曲)

I 放浪 II 愛のワルツ III 朝の調べ IV 謝肉祭の行列

「海の組曲」「ガボットセレナーデ」「降誕祭の夜」など珠玉のマンドリン合奏曲で知られるアマデイ（1866年～1935年）の作品です。しかし、原曲は管弦楽曲です。イタリアに留学した同志社大マンドリンクラブOBの岡村光玉氏がアマデイの息女カルラ女史を訪ね、その機縁で5つの管弦楽組曲が我国マンドリン研究の第一人者の中野二郎氏（1902年～2000年）の元へ送られ、氏によってマンドリン合奏曲に編曲された中の1曲です。中野氏の数十におよぶ楽譜集の中の古典マンドリン名曲集第13集に集録されています。アマデイの特徴である華麗で、上品で、ロマンティックな魅力に溢れており、音楽辞典のアマデイの業績に数えられ、1935年の追悼演奏会で演奏されるなどまぎれもなく代表作品のひとつといえます。ゴリアルド（中世の放浪学生）は中世ヨーロッパの大学生で、知識や経験を求め各地を旅しました。放浪というよりも視察、巡察、留学といった方が適切なようです。旅の途中に遭遇したであろう様々な情景が鮮やかに描き出されています。（山本）

指揮者：○山本雅三 ○宮本皓永 嶋直樹

コンサートマスター：○本間輝樹

第一マンドリン：○本間輝樹 田島明子 諸井美津江 前田啓子
嶋直樹 新居裕久 城戸かほる 富田容子

第二マンドリン：○後藤俊明 坂井美佐子 木村栄子 中沢敦子
○藤田正美 中村順子 平賀理恵子

マンドラテノール：○岩片順子 田中倭文子 滝田ふさ子 深野靖夫
渡辺清 玉木理恵子 佐々木興治 新谷文子

ギター：宮本紀子 平田陽一 戸次脩 黒崎恵美子
高橋貴久子 城所俊雄 門田雄二 佐竹真弓
沢田行雄

リユートモデルノ：○宮本皓永

マンドチェロ：宮崎泰行 田村美恵子

マンドローネ：○家城孝治 宮沢栄作

コントラバス：佐藤正 ○石黒不二夫

フルート：・比護いづみ

クラリネット：・品川秀世

打楽器：・秋葉久美子 ・山田俊之

詩朗読：・鈴木保彦

{ ○ ————— 幹事 }
{ ・ ————— 賛助出演 }

オーケストラ シンフォニカ 東京 (OST)

連絡先：〒236-0057 横浜市金沢区能見台3-28-6 石黒不二夫

TEL 045-770-4806